

## 論文内容要旨（乙）

論文題名 Ultrasonographic findings of placenta lacunae and a lack of a clear zone in cases with placenta previa and normal placenta  
(前置胎盤における placenta lacunae、clear zone の欠如の超音波所見に関する検討)

掲載雑誌名

PRENATAL DIAGNOSIS vol. 31, Issue 11, pages 1062-1065, 2011 年 掲載

講座名 外科系 産婦人科学 氏名 濱田尚子

内容要旨

【目的】癒着胎盤を疑う超音波所見として placenta lacunae (PL) や clear zone (CZ) の消失などが知られているが、これらの所見は癒着のない前置胎盤にもしばしば観察される。そこでこれら 2 所見の癒着胎盤の発症予測への有用性を各種胎盤の病態で比較検討した。

【方法】2007-2009 年に当院で分娩した単胎 2413 症例を後方視的に分析した。分娩時に前置胎盤と診断された症例を case とし、1:5 で母体年齢をマッチさせた常位胎盤症例を control として、相互を比較した。超音波検査にて胎盤実質に直径 1cm 以上の無エコー領域が一つ以上見られる時 PL 陽性とし、胎盤と子宮筋層の間の脱落膜領域に相当する low echoic な線状エコーが欠如している場合を CZ の欠如所見陽性とした。

【成績】単胎の前置胎盤は 70 例 (2.9%)、常位胎盤は 2343 例あり、前置胎盤 70 例、常位胎盤 350 例を対象とした。癒着胎盤は、前置胎盤の 7.1% (5 例) にあったが、常位胎盤では認めなかった。前置胎盤において癒着胎盤の有無で比較した結果、CZ 消失の頻度は、癒着胎盤症例で 60% (3 例)、癒着胎盤なし症例で 1.5% (1 例) であった ( $p < 0.001$ )。PL は癒着胎

盤例で 60% (3 例)、癒着胎盤なし症例で 29.2% (19 例) であった ( $p=0.316$ )。case と control の比較では、PL の頻度はそれぞれ、31.4% (22 例)、9.7% (34 例) で、オッズ比 4.2 (2.3-7.9)、CZ の欠如所見は 5.7% (4 例) と 0.9% (3 例) で、オッズ比 7.0 (1.5-32.0) であった。

【結果】PL や CZ 欠如の所見は、癒着のない前置胎盤にも高頻度に認めた。また、両所見は前置胎盤において常位胎盤に比し有意に高頻度であった。

今回の検討で、PL は常位胎盤症例の 9.7% に検出され、この所見が必ずしも癒着胎盤に特異的な所見でないことが判明した。一方、CZ は子宮筋層と胎盤組織との境界に位置するため、その消失は基底脱落膜の欠損を示すと考えられ、癒着胎盤を示唆する所見である。本研究では、癒着胎盤症例では非癒着胎盤症例に比べ有意にその消失が高頻度であった。これらのことから、前置胎盤症例で CZ の消失を認めた場合には、癒着胎盤を念頭に入れた術前準備が重要であることが示された。